

まちづくり交付金 事後評価結果
湘南台西地区

平成21年12月

神奈川県藤沢市

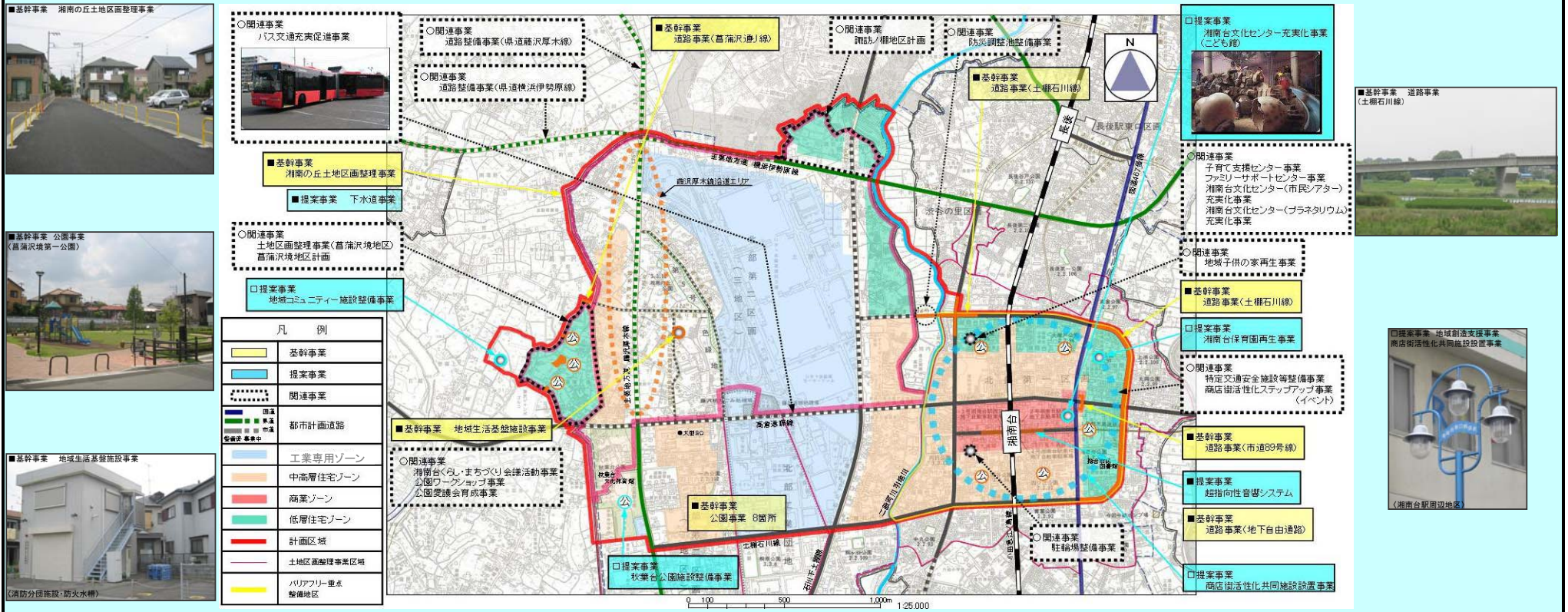
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	藤沢市		地区名	湘南台西地区			面積	560ha	
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	6,374	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業 道路(土棚石川線・新設)、道路(菖蒲沢通り線)、公園、地域生活基盤施設、土地区画整理事業		事業名							
	当初計画から削除した事業		提案事業 地域創造支援事業(湘南台文化センター充実化事業、湘南台保育園再生事業、商店街活性化共同施設設置事業、地域コミュニティ施設整備事業、秋葉台公園施設整備事業)		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	新たに追加した事業		基幹事業 下水道事業		提案事業 地域創造支援事業(地域子どもの家再生事業)、まちづくり活動推進事業(商店街活性化ステップアップ事業、湘南台くらし・まちづくり会議活動事業、公園ワークショップ事業、公園愛護会育成事業)			基幹事業から提案事業へ変更のため		指標への影響は無し		
	交付期間の変更		当初変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			提案事業から関連事業へ変更のため		指標への影響は無し		
	新たに追加した事業		基幹事業 道路(土棚石川線・改良)、道路(市道89号線)		提案事業 地域創造支援事業(下水道事業、超指向性音響システム)			新たに事業化されたため		指標への影響は無し		
交付期間の変更		当初変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			下水道事業は基幹事業から移行したため、超指向性音響システムは「湘南台くらし・まちづくり会議」の提言により追加。		指標への影響は無し			
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	指標1	子育て支援・子ども文化施設の利用率	人/年	145,000	H16	160,000	H21	164,000	○	あり	湘南台文化センター(こども館)を整備したことにより誰もが利用しやすい施設となったことに加え、関連事業で湘南台文化センター(プラネタリウム)を整備したことにより、利用者が増加傾向となった。あわせて関連事業により子育て支援事業を行ったことで、「子育てにやさしく、誰もが安心・快適なまちづくり」の目標に合致したまちづくりとなった。なお、評価値については目標値を達成できている。	平成23年5月1日
	指標2	地区移動時間の短縮割合	%	100	H16	60	H21	48	○	あり	都市計画道路藤沢厚木線の整備により地区内の交通移動性が強化された。移動時間短縮割合が増加傾向となったことにより「地区内の交通移動性の強化」が図られた。なお、評価値については目標値を達成できている。	
	指標3	生活環境の改善割合	%	2	H16	20	H21	20	○	あり	土地区画整理事業により道路や宅地を整備し、あわせて下水道や水道といったライフラインについても総合的に整備された箇所は、生活環境が大幅に改善され「誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地の形成」が図られた。なお、評価値については目標値を達成できている。	平成22年4月1日
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	下水道の普及率	%	29.8	H16			41.9			土地区画整理事業を中心に、下水道の整備を行い総合的なまちづくりが行われたことで、「誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地の形成」が図られた。	平成22年4月1日
	その他の数値指標2	湘南台駅周辺特定交通安全施設整備事業区域以外のパブリックの整備延長	m	0	H16			1,260			歩行者にやさしい歩道整備を行ったことにより交通環境が改善され、「地区内の交通移動性の強化」及び「誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地形成」が図られた。	平成22年4月1日
	その他の数値指標3	市道の交通量の削減	台	5,894	H18			3,320			県道藤沢厚木線の開通により、慢性的に渋滞していた市道(葛原南通り線)の渋滞緩和が図られ、「地区内の交通移動性の強化」及び「誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地形成」が図られた。	
	その他の数値指標4	下水道による水環境の整備に関する市民満足度(遠藤地区、湘南台地区の平均、1000点換算)	点	678	H17			699			土地区画整理事業と一体的に下水道事業を行ったことで、下水道による水環境の整備に関する市民満足度が増加し、「誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地の形成」が図られた事が確認された。	平成22年12月1日
	その他の数値指標5	公園など身近な公共施設の維持管理への参加の促進に関する市民満足度(遠藤地区、湘南台地区の平均、1000点換算)	点	625	H17			641			公園愛護会の設立により、公園などの身近な公共施設の維持管理に住民参加することに関する市民満足度が増加し、持続的に住民参加によるまちづくりを行う仕組みが構築された事が確認された。	平成22年12月1日
	その他の数値指標6	くらし・まちづくり会議と行政との連携協力に関する市民満足度(湘南台地区、1000点換算)	点	626	H17			640			くらし・まちづくり会議と行政との連携協力に関する市民満足度が増加していることにより、住民主導によりまちづくりを行った結果、愛着のある施設が設置できた事が確認された。	平成22年12月1日
	その他の数値指標7	地域の道路整備や交通安全対策など、良好な生活環境の維持・整備に関する市民満足度(湘南台地区、1000点換算)	点	601	H17			634			区画整理事業や道路事業を行ったことで、地域の道路整備や交通安全対策など、良好な生活環境の維持・整備に関する市民満足度が増加し、「地区内の交通移動性の強化」及び「誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地の形成」が図られた事が確認された。	平成22年12月1日
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 湘南台くらし・まちづくり会議の提言により施設整備を行い、住民主導によるまちづくりを行った。加えて、住民が望んだ施設であることから愛着のある施設となった。 整備した公園においては、公園ワークショップ形式を用い住民主体で計画を作成したため、整備した公園がより身近に感じられ、地域住民同士の対話の機会が増え地域交流の場となった。 子育て支援施設である湘南台保育園の耐震補強工事を行ったことにより、施設の安全性が高まった。 											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	土地区画整理審議会の中で事業効果や事業の進め方などについて意見を求めた。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後においても、土地区画整理審議会の中で事業効果についての評価などについてモニタリングを実施する。					
	住民参加プロセス	「湘南台くらし・まちづくり会議」において提言のあった、サークルベンチや超指向性音響システムを設置した。また、菖蒲沢第二、第三公園ワークショップ事業、菖蒲沢第一公園ワークショップ事業を実施した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 未整備の公園についても、今後、公園ワークショップを開催する予定である。					
持続的なまちづくり体制の構築	菖蒲沢第一、第三公園において「公園愛護会」を設立し、住民主体で公園の管理を行っている。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 菖蒲沢第二公園愛護会の設立について今後も促進を図る。						

様式2-2 地区の概要

湘南台西地区(神奈川県藤沢市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
『誰もが安心して快適に暮らし・働ける都市環境の創出』 ・子育てにやさしく・誰もが安心・快適なまちづくり ・地区内の交通移動性の強化 ・誰もが安心・快適で暮らしやすい市街地の形成	子育て支援・子ども文化施設の利用者数 単位:人/年	145,000 H16	160,000 H21	164,000 H21
	地区移動時間の短縮割合 単位:%	100 H16	60 H21	48 H21
	生活環境の改善割合 単位:%	2 H16	20 H21	20 H21



まちの課題の変化	「子育て支援拠点の形成、地区内の安心、快適環境の整備」、「交通環境の改善と公共交通の充実」、「安心、快適で良好な居住環境の整備」について一定の整備が図られた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な居住環境づくり ・土地区画整理事業により区域内の道路、下水道、公園などの都市基盤整備を総合的に進める。 ・公園の維持管理については、地域の活性化のため住民主体で維持管理を行う公園愛護会の設立を推進する。 ○市民と協働によるまちづくりの実施 ・「くらしまちづくり会議」から新組織である「地域経営会議」に移行し、地域特性に合致したまちづくりを市民自ら行える仕組みを構築した。